

地中海研究所活動報告

□ シンポジウム □

シンポジウム

2009年11月7日(土) 14:00~17:00 (39号館 第7会議室)

共催: 早稲田大学中世・ルネサンス研究所

挨拶 宮城徳也 (早稲田大学文学学術院)

第一部 講演

根占献一 (学習院女子大) 「ルネサンス世界—その意義と我々」

第二部 シンポジウム「古代ローマと中世ヨーロッパ—学際的な共同研究に向けて」

報告者 宮城徳也 (早稲田大学文学学術院)

瀬戸直彦 (早稲田大学文学学術院)

益田朋幸 (早稲田大学文学学術院)

甚野尚志 (早稲田大学文学学術院)

□ 地中海研究所例会 □

第26回例会 2009年5月16日(土) 15:00-17:30 (39号館第7会議室)

(共催: イタリア言語・文化研究会第106回例会)

尾崎有紀子 「日本近代における同時代イタリアの視覚イメージ

—明治~昭和戦前期の大衆雑誌・児童書を中心に—

牧野素子 「アントニオ・タブッキの「インド夜想曲」の一解釈—ペソアと自分探しの旅物語」

第27回例会 2009年6月13日(土) 15:00-18:00 (39号館第5会議室)

ラウラ・サバットリイ 「La lettura di livello intermedio per apprendenti di italiano L2/LS

イタリア語学習者を対象にした中級レベルの読解教材について」

市川慎一 「ナポレオン三世の対外政策 —遠隔地メキシコと日本の場合—

□ イタリア言語・文化研究会例会 □

連絡先：早稲田大学イタリア研究所内 イタリア言語・文化研究会

E-mail: wasedaitalia@hotmail.com

第 105 回例会 2008 年 3 月 7 日（土）15：00-17：30（39 号館第 6 会議室）

芳賀理恵「15 世紀後半フィレンツェの<トビアの天使>をめぐって

—アウグスティヌス会とメディチ派の女性を中心に—

尾河直哉「ピノッキオの鼻はなぜ伸びるのか？

—『ピノッキオのぼうけん』における身体をめぐって—

第 106 回例会 2009 年 5 月 16 日（土）15：00 - 17：30（39 号館第 7 会議室）

（共催：早稲田大学地中海研究所第 回例会）

尾崎有紀子「日本近代における同時代イタリアの視覚イメージ

—明治～昭和戦前期の大衆雑誌・児童書を中心に—

牧野素子「アントニオ・タブッキの「インド夜想曲」の一解釈—ペソアと自分探しの旅物語」

第 107 回例会 2009 年 7 月 11 日（土）15：00-17：00（39 号館第 6 会議室）

大歳剛史「ボッカッチョの寓意詩における理想化された“amore”

伊藤拓真「聖母マリア伝としてのプラート大聖堂ステンドグラス再構成」

第 108 回例会 2009 年 9 月 19 日（土）15：00-17：00（39 号館第 5 会議室）

今津牧「第二言語としてのイタリア語—日本人学習者の発話と作文の統語分析—

北村紀久子「丘上都市ペルージア—中世の都市」

第 109 回例会 2009 年 12 月 5 日（土）15：00-17：30（39 号館第 7 会議室）

長沢朝代「ピエロ・デッラ・フランチェスカ作《聖十字架物語》

—プロパガンダとしてのコンスタンティヌス帝を中心に—

山崎彩「『ゼーノの意識』への道—沈黙期に書かれた未発表の短編小説をめぐって」

第 110 回例会日時 2010 年 1 月 30 日（土）15：00-17：30（39 号館第 7 会議室）

古田耕史「レオパルデイの反“ロマン主義”について」

北川佳子「ファシズム期のコモの建築家 テラーニとカッターネオ」

□ 地中海研究所研究員 □

研究員 宮城徳也 (所長)
丸野 稔
森原 隆
酒井紀幸
益田朋幸

客員研究員 篠塚千恵子 (武蔵野美術大学教授)
根占 猷一 (学習院女子大学教授)
松原俊文 (早稲田大学非常勤講師)
ジョージ・ムスラキス (オークランド大学 Senior Lecturer)

(編集後記)

地中海研究所が、数年に渡って活動を続け、各種研究会やシンポジウムを開催し、毎年紀要を出し続けることができたのは、小林雅夫先生のご指導と、先生の教え子である大学院学生福山佑子さんの献身的努力に負うところが大きい。小林先生のご退職にともない、私が所長を引き受けたが、小林先生の偉大さを痛感する日々に、とても私の手に負える仕事ではなかった。幸いなことに、地中海研究所の研究員、客員研究員を含む意欲ある研究者たちが、地中海研究所の実績と精神を活かしながら中世・ルネサンス研究所を設立したので、地中海研究所は発展的解消をして、今後は中世・ルネサンス研究所に活動の場を移し、早稲田大学のヨーロッパ研究に寄与して行きたい。したがって『地中海研究所紀要』は今号が最終号となる。本年度は、例会を2回開催し、中世・ルネサンス研究所と共催のシンポジウムを開き、意欲的な論文3本を掲載した紀要を刊行することができた。最後まで、堅実な活動を続けることができたのも、その殆どは、小林雅夫先生のご指導と福山佑子さんの助力のおかげである。最後の所長として、紀要最終号の編集後記で私が述べたいのは、小林先生と福山さんへの感謝である。ありがとうございました。

宮城徳也

地中海研究所ホームページ : http://www.waseda.jp/prj-med_inst/index.html